

復興に貢献したPC橋

橋名	金比羅橋(こんびらばし)
発注者名	宮城県
施工会社名	東日本コンクリート(株)
施工場所	宮城県石巻市北上町十三浜地内
工期	平成29年2月～令和2年10月
構造形式	PC3径間連続ラーメン箱桁橋
橋長	251.0m
最大支間長	105.0m
架設方法	片持架設



▲片持架設状況：左下事務所付近が相川小学校跡



▲橋名板揮毫引き渡しと記念品授与式



▲三陸復興国立公園にて、川のビジターセンターボランティア活動



▲相川小学校記念碑

とご協力がよい結果につながつたと思います。また工事期間中は、三陸復興国立公園の清掃イベントの参加や、除草活動を行い、地域の方に喜んでいただけました。

震災時、児童達は校舎の裏山に避難したと聞きました。その行動は迅速で共に避難した大人を励ましながら指定場所からさらに上へ登ったことで難を逃れたそうです。工事を始める際に地元の方から「家族を守るために、自分の命を守る行動をして下さい」と教わりました。防災とは命を守り家族や仲間と出会える仕組みをつくることだと思います。その役割を担う橋をこの地区に架けることに胸が熱くなつたのを覚えています。

国道398号は各所に架橋されたPC橋で結ばれ、金比羅橋も令和3年度内に開通します。地域を結び、家族や仲間を結ぶ役割を長きにわたつて担うことを願っています。

(東日本コンクリート(株) 吉川 武志)



金比羅橋

- 災害跡地を利用した道路ネットワーク復興の架け橋 -

宮城県石巻市北部沿岸の北上町十三浜相川地区に押し寄せた津波は、国道を遮断したあと200m内陆の相川小学校の校舎3階まで達し、集落全体に壊滅的な被害を与えました。金比羅橋は、災害に強い道路ネットワークの構築と地域間のアクセス向上を目的として計画された橋長251mのPC3径間連続ラーメン橋です。本橋は相川小学校跡地上空に架かる橋梁で、高台に移転した2つの集団団地を結びます。この橋は橋桁と橋脚を一体化した「ラーメン」と呼ばれる構造で、その特徴から地震による橋脚の揺れを小さくし、過大な揺れに対しても橋桁の落橋を抑えよう空中で橋桁の架設を進め、「片持架設工法」にて施工しました。本工事の始まりは、この地区的復興工事の始まりでもありました。道路、河川護岸、漁業集落事業等が一齊に進められ、当初は広く思えた敷地も工事が始まると資材を運搬するスペースさえありませんでした。そのため各事業者や施工者と工事の調整や情報交換を行いながら、時には譲歩し、時には集中して工事を進め、次の工事に引き継いでいきました。滞らせるのではなく前に進めていこうという皆の思いと地元の方のご理解をいただきました。